

4. ICT の活用を基盤とした教育施策の推進

2030年頃には、第4次産業革命とも言われる、IoTやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想されています。

本市では、こうした新たな時代を担う子どもたちが、未来を切り拓くことができるよう、ICTを手段として活用できる力を育み、ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた効果的な授業改善に取り組みます。また、個々の児童生徒の知識・技能等に関する学習計画及び学習履歴（スタディ・ログ）等を活用し、個々の状況に応じたきめ細かな指導の充実や学習の改善を図ります。

また、長期にわたる学校園の臨時休業措置等が必要となった場合における授業の動画コンテンツの配信など学びの連続性を担保するとともに、支援を要する児童生徒や不登校児童生徒等の個々に応じた支援を行います。

さらに、よい教材を蓄積し、共有することによる教員の授業準備時間の削減や、教材研究の充実による教員の指導力の向上など、あらゆる教育施策の充実に向け、ICTの積極的な活用を進めます。

ICT を活用した学習場面

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

▶ A1: 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

▶ B1: 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

▶ B2: 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

▶ C1: 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

▶ C2: 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

▶ B3: 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

▶ B4: 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

▶ B5: 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

▶ C3: 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

▶ C4: 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

出典：文部科学省「ICT を活用した指導方法（1人1台の情報端末・電子黒板・無線 LAN 等）～学びのイノベーション事業実証研究報告書より～」

遠隔教育の分類

A 多様な人々とのつながりを実現する遠隔教育

A1 遠隔交流学習

離れた学校の児童生徒同士が交流し、互いの特徴や共通点、相違点などを知り合う。



A2 遠隔合同授業

他校の教室とつないで、継続的に合同で授業を行うことで、多様な意見にふれたり、コミュニケーション力を培ったりする機会を創出する。



B 教科等の学びを深める遠隔教育

B1 ALTとつないだ遠隔学習

他校等にいるALTとつないで、児童生徒がネイティブな発音にふれたり、外国語で会話したりする機会を増やす。



B2 専門家とつないだ遠隔学習

博物館や大学、企業等の外部人材とつなぎ、専門的な知識にふれ、学習活動の幅を広げる。



B3 免許外教科担任を支援する遠隔授業

免許外教科担任が指導する学級と、当該教科の免許状を有する教員やその学級をつなぎ、より専門的な指導を行う。



B4 教科・科目を充実するための遠隔授業

高等学校段階において、学外にいる教員とつなぐことで、校内に該当免許を有する教員がいなくても、多様な教科・科目を履修できるようにする。



C 個々の児童生徒の状況に応じた遠隔教育

C1 日本語指導が必要な児童生徒を支援する遠隔教育

外国にルーツをもつ児童生徒等と日本語指導教室等をつなぎ、日本語指導の時間をより多く確保する。



C2 児童生徒の個々の理解状況に応じて支援する遠隔教育

個々の児童生徒と学習支援員等を個別につなぎ、児童生徒の理解状況に応じて、学習のサポートを行う。



C3 不登校の児童生徒を支援する遠隔教育

自宅や適応指導教室等と教室をつないで、不登校の児童生徒が学習に参加する機会を増やす。



C4 病弱の児童生徒を支援する遠隔教育

病室や院内分教室等と教室をつないで、合同で授業を行うことで、孤独感や不安を軽減する。



出典：文部科学省「遠隔教育システム活用ガイドブック第1版」